

講義名	小売業概論			
担当教員	新 雅史			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

私たちは、日々さまざまなモノやサービスを購入していますが、たとえば食材ひとつとっても、さまざまな方法によって入手することができます。八百屋や肉屋のような専門店で購入する方法、百貨店のような高級食材を扱っている場所で購入する方法、スーパーマーケットのような総合店で購入する方法、あるいは産地からのネット購入という方法もあるでしょう。販売方法が変われば、当然、そこで提供される顧客情報も異なります。こうした販売方法の違いは、どのような影響に、どの程度の付加価値のある利益を、どのように提供するのかという「小売業態」から整理することができます。この授業では、日本の流通企業がそれぞれの時代の課題に対応して、どのような小売業態を創発してきたかを、具体的なケースから学びます。

到達目標

(1)さまざまなタイプの小売業の特徴を理解する。
(2)小売業を支える仕組みの変化を理解する。

提出課題

期末レポート

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

講義中に絶話、講評を行います

評価の基準

授業の感想と質問を記すレスポンの提出を50%、期末レポートを50%にて、学習の到達度を評価します。毎回のレスポンの内容が優れている場合は、加点をおこないます。

履修にあたっての注意・助言他

どのようなタイプの小売業があるかを、事前に調べておくこと。例えば、日経MJ（日経流通新聞）などが提供する小売業のニュースにふれるとよいでしょう。

教科書				
.1からの流通システム.	崔相讓・岸本徹也（編著）	碩学舎	2640	978-4-502-26191-6

プリント資料及び参考文献

講義連絡を通じて資料を配付します。
基本的な参考文献は以下の通り、それ以外も適宜紹介します。
新雅史：2017『寄居術はなぜ衰えるのか』光文社新書
石原武政・竹村正明・細井謙一編著、2018『1からの流通論（第2版）』碩学舎
石原武政編著、2018『小売業起点のまちづくり』碩学舎
など

授業計画

第1回：ガイダンス；「小売業態」の意味を考える
第2回：小売業態はどのように歴史的に変化したか
第3回：小売業態として商店街を考える
第4回：呉服店はどのように百貨店に生まれ変わったか
第5回：なぜ郊外の電統はターミナル型百貨店をつくったか
第6回：『流通革命』とスーパーマーケット
第7回：総合スーパーマーケットの興亡
第8回：地域密着型総合スーパーマーケット
第9回：家電専門店はどう広がったか
第10回：紳士服を輩出する仕組み
第11回：家具専門店から考える製造小売業（SPA）
第12回：楽間はいかにドラッグストアに生まれ変わったのか
第13回：均一価格店のビジネスモデルとは
第14回：インターネット上につくられる「モール」とは何か
第15回：まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：自らのテーマに沿った資料の収集（1時間）
復習：授業で新たに気が付いたこと、の整理と関連文献の渉猟（2時間）
特に復習に力を入れてください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

流通業界の動向や関連を理解するための基礎知識を身につけることができる。特に、小売業に関する問題探索に役立つ。
流通における小売業の動向や役割を理解できる。
主要な小売業の業態を理解することを通じ、小売業の社会的意義を深め、業界での就業意欲が高まる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レスポンのアンケート機能をもちいるなど双方向性をもった授業を予定している

実務経験の有無及び活用

備考

新型コロナウイルス感染症の状況によって開講形態が変わる可能性がある。